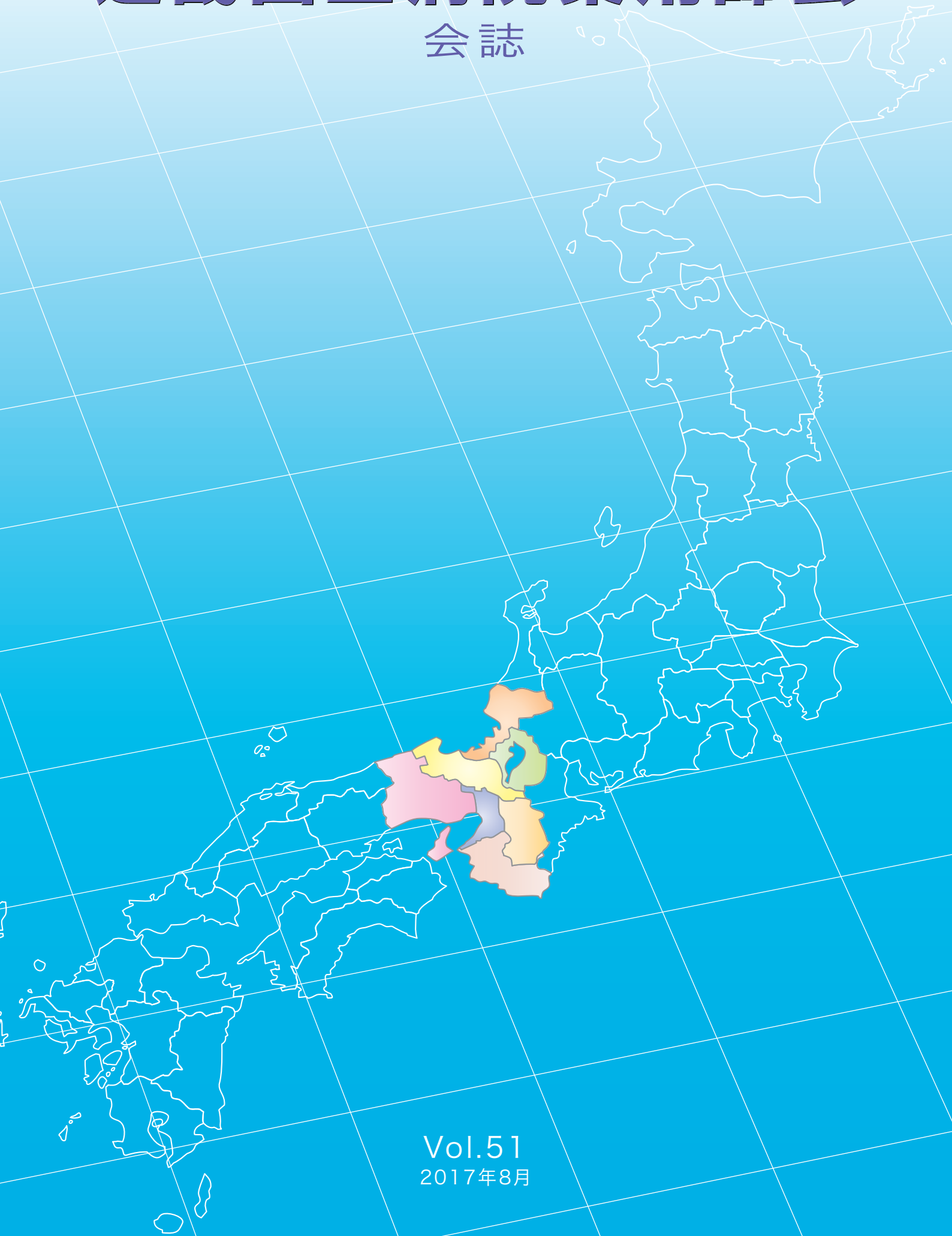


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.51
2017年8月

目 次

提言～個の能力とモチベーション～.....	3
	紫香楽病院 土井 敏行
薬剤部紹介.....	4
	循環器病研究センター 川端 一功
「第9回 日本下肢救済・足病学会学術集会」に参加して.....	6
	循環器病研究センター 小山 真季
「第2回日本臨床薬理学会中国・四国地方会」に参加して.....	7
	兵庫中央病院 竹原 健次
「薬剤師の集い」に参加して.....	8
	やまと精神医療センター 大住 悠介
平成29年度 新任中間監督者研修報告.....	10
	奈良医療センター 海家 亜希子
平成29年度近畿国立病院薬剤師会 薬剤師セミナー1(Basic コース) 報告.....	12
	神戸医療センター 鷺田 依美里
平成29年度近畿国立病院薬剤師会 薬剤師セミナー2(Advance コース) 報告.....	13
	京都医療センター 藤井 大和
「平成29年度近畿国立病院薬剤師会 薬剤師セミナー1(Basic コース)」に参加して...	14
	刀根山病院 保井 健太
「平成29年度近畿国立病院薬剤師会 薬剤師セミナー2(Advance コース)」に参加して.	16
	兵庫中央病院 森田 知子
平成29年度近畿国立病院薬剤師会 薬剤師セミナー特別講演会報告.....	17
	刀根山病院 東 里奈

地区会報告.....	18
敦賀医療センター	宮部 泰輔
京都医療センター	藤井 大和
神戸医療センター	山下 大輔
循環器病研究センター	中嶋 裕美
大阪医療センター	坂倉 広大
奈良医療センター	中澤 誉
南和歌山医療センター	小林 正志
趣味のページ～普通サイズじゃ物足りない～.....	22
循環器病研究センター	白井 祐也
編集後記.....	23

提言～個の能力とモチベーション～

紫香楽病院 土井 敏行

来年の6月にサッカーのワールドカップがロシアで開催されます。全日本のアジア予選も残り2試合(対オーストラリア・サウジアラビア)、その結果により本戦への出場が決まります。1998年に初めてアジア予選を突破し、ワールドカップに出場しました。それ以降、5大会連続して出場し、2002年のベスト16が最高の成績となっています。全日本のプレースタイルは「パスサッカー」であり、全員攻撃・全員守備を行うための組織力強化が行われていました。フィジカル面では世界に通用しないため組織力により戦術を組み立てることが、日本人にとって最も効果的な方法であると言われていました。2006年、全日本監督としてブラジルのジーコが就任し、今までのプレースタイルが大きく変えられました。パスを回しながら攻撃に繋げる「パスサッカー」ではなく個の能力(テクニック・フィジカル)によりその局面を打開し攻撃に繋げる「個の能力」を中心としたチーム作りに変わっていききました。この改革により、「個の能力」をさらに高めるため、海外に移籍する選手が増えていきました。

小学4年生からサッカーを始め学生、社会人でサッカーを経験し、今はシニアチームで2ヶ月に1回ぐらい試合に参加(ほとんど応援)しています。大学4回生の時にはゲームキャプテンとして練習方法の決定を行ったり、試合のメンバー選出を行っていました。後輩の中にはサッカー経験がなく、誘われたのでとりあえず入部した者が半数(約20名)ほどいました。モチベーションが下がり辞めていく後輩も多くいたため、如何にしてその後輩のモチベーションを高めるかが、重要な役割の一つでもありました。先輩・後輩の縦の関係が非常に厳しく、先輩の発言は絶対であり逆らえなかった時代ではありましたが、横の関係を築くことにより後輩とのコミュニケーションを上手く取ることができました。コミュニケーションを取り信頼関係を構築することで後輩のモチベーションも少しは高められたのかもしれません。

モチベーションを高めるには明確な目標設定が必要です。あまり高い目標ではなく達成出来る目標を設定し、達成すればまた新たな目標を設定します。これを繰り返すことによりモチベーションを高めることができます。繰り返し目標を達成することは、大変難しいことではありますが、諦めずに目標に向かって少しずつ努力すれば必ず結果は得られるのではないのでしょうか。モチベーションを高めれば、「個の能力(知識・スキル)」は必然と高まります。

「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る。」井上 靖より

折に触れこの言葉を思い出し、今の自分はどちらなのか自分自身に問いたくなります。そしてもちろん希望を語る人でありたいものです。



薬剤部紹介

国立循環器病研究センター



【病院概要】

国の医療政策と一体となって国民の健康を守るため、循環器病を対象とする国立高度専門医療研究センター（ナショナルセンター）として 1977 年（昭和 52 年）に設立されました。2010 年（平成 22 年）に独立行政法人へ移行し、さらに 2015 年（平成 27 年）に国立研究開発法人へ移行して現在に至るまで、循環器病に関する診断・治療、調査・研究および専門医療従事者の研修・育成を担っています。

当センターは大阪府吹田市北部に広がる千里丘陵の一角、万国博公園や閑静な住宅地に隣接する緑豊かな地に位置し、近隣の大阪大学吹田キャンパスなどとともに千里ライフサイエンス・ゾーンと位置づけています。また、新幹線、高速道路、空港などの広域交通アクセス手段にも恵まれています。

【薬剤部紹介】

薬剤部は薬剤部長、副薬剤部長 2 名、調剤主任、製剤主任、薬務主任、医薬品情報管理主任、薬歴管理主任、治験主任 2 名、試験検査主任、薬剤師 25 名、レジデント 5 名、非常勤薬剤師、薬剤助手の 43 名で構成されています。当センターでは 2006 年（平成 18 年）4 月より一般病棟への薬剤師常駐化を開始し、2012 年（平成 24 年）5 月から病棟薬剤業務実施加算の算定を開始しました。また、2016 年（平成 28 年）には特殊病棟における病棟業務実施加算 2 の算定を段階的に進め、年末にはすべての特殊病棟における算定を行っています。チーム医療においても積極的な参画をおこなっており、ICT、NST、褥瘡、緩和、移植等へのチームとしての参加のみならず、TDM や副作用モニタリングの主導的な実施などにより、医療安全および薬物療法の質の向上に貢献しています。

また、当センターの基本方針として臨床薬学研究も積極的に推進しており、薬剤師レジデント制の導入や病院・大学との連携も進めることで研究・教育・研修にも力を注いでいます。



【最後に】

国立循環器病研究センターは2019年（平成31年）7月に岸辺の吹田操車場跡地への移転建替を進めています。大阪府をはじめ関係機関との協力のもと、当センターを中心とした産学官民連携による国際級の医療クラスター（名称：北大阪健康医療都市 愛称：健都）を目指しています。



新病院イメージ図

（文責：川端 一功）

「第9回 日本下肢救済・足病学会学術集会」に参加して

循環器病研究センター 小山 真季

2017年5月26日～27日に福岡国際会議場で開催された、第9回日本下肢救済・足病学会学術集会に参加させていただきましたのでご報告いたします。

本学会は糖尿病・透析患者などに多い末梢動脈疾患の足病変、特に重症下肢虚血(CLI)に対する診療体系の確立を目的としています。CLIの治療には多職種の連携が不可欠で、今回の学術大会では「足救済のために団結せよ」をテーマに、多くの職種の方々が参加されていました。主な参加者は医師・看護師・理学療法士ですが、私は褥瘡対策チームの専任医師、WOCナース、管理栄養士とともに参加いたしました。

当院では、CLI患者に対する血管内治療を積極的に行っており、褥瘡対策チームが創傷管理の一貫として、CLI患者に適切な疼痛コントロールが行えるよう、鎮痛剤使用のフローチャートを作成・運用しています。私はチーム医療のセッションで「重症下肢虚血患者の鎮痛剤使用に関するフローチャート運用報告」という演題で口頭発表させていただきました。学術大会での薬剤師の発表が1演題だけであったため、発表前は興味を持ってもらえるのか不安でしたが、質疑応答では積極的な質問が多く、薬剤師による介入をこれから増やしていくことができる可能性があることを実感しました。また、現在運用しているフローチャートの改善点も見出すことができ、とても貴重な経験をすることができました。

CLIの治療は単一の診療科で解決できる疾患ではなく、糖尿病・透析、循環器、血管外科、形成外科、皮膚科などの診療科連携が必要です。学会ではシンポジウムや教育講演は医師や看護師向けの専門的なセッションが多く、自分自身の知識の少なさを痛感しました。これから少しずつ勉強していきたいと思います。

最後になりましたが、今回の発表に関しご指導いただいた先生方に深く御礼申し上げます。この経験を今後活かせるよう努めていきます。



「第2回日本臨床薬理学会中国・四国地方会」に参加して

兵庫中央病院 竹原 健次

2017年7月15日（土）に岡山大学 Junko Fukutake Hall で開催された、「第2回日本臨床薬理学会中国・四国地方会」に参加しましたので報告いたします。

第2回となる今回のテーマは「医療現場に活かせる臨床薬理」でした。1日ではありましたが、今後の臨床研究に関する動向を知ることができました。

現在日本では革新的医療技術創出拠点プロジェクトが開始されました。これは、日本では基礎医学の分野は世界をリードする成果を上げているが、製品化に対する意識が低く、臨床への適応が遅れてきた現状を改善するために発足したプロジェクトとなります。主な目的としては橋渡し研究支援拠点や臨床研究中核病院等において、アカデミア等による革新的な基礎研究の成果を一貫して実用化につなぐ体制を構築することとなっております。岡山大学病院は橋渡し研究支援拠点や臨床研究中核病院に指定され、その一端を担っています。

現在、岡山大学病院では岡山大学メディカルセンター構想（①岡山大学病院②岡山市立市民病院③岡山労災病院④岡山赤十字病院⑤岡山済生会病院⑥国立病院機構岡山医療センターを1つの法人化する）があります。この構想の目標の1つに、「国際レベルのメガホスピタルを創出し、県外およびアジア等海外からも患者を受け入れる医療事業の核とするとともに、日本のサービスを海外へ輸出する拠点とする。」とあります。これにより、今まで別々の病院で行われていた臨床研究も1本化することができ、事務局業務の軽減、1病院当たりのコストを下げることによる薬剤開発費の削減、被験者リクルート速度の上昇による早期承認の実現が見込める大きなメリットがあります。しかし、障壁は大きく別法人を纏めるとなると、各法人本部の意向もあるのでなかなか進まないようです。

この構想が実現すれば、日本の臨床研究がさらに一歩前進できるのではないかと思います。

当方も学んだことを活かして地域で行われている構想の情報を収集してNHOにおける臨床研究の発展に少しでも寄与していきたいと思います。



「薬剤師の集い」に参加して

やまと精神医療センター 大住 悠介

6月24日、25日に兵庫県姫路市で「薬剤師の集い」が開催されました。私は大阪－姫路間のバスツアー、旅館 夢乃井での宴会・宿泊、姫路観光と2日間まるまる参加させていただきました。

初日は大阪から約50名を乗せたバスで姫路までバスツアーに参加しました。神戸ワイナリーで昼食のBBQやワインの試飲を楽しみ、その後、生野銀山にて歴史深く貴重な遺物を見学させていただきました。道中クイズ、ビンゴ大会など移動の間も盛り上がりしました。ゲームを通して他施設の先生方と交流をもたせていただきました。様々な企画で盛り上げてくださった先生方には紙面をお借りして御礼申し上げます。

バスはやがて旅館 夢乃井に到着し、荷物を自室に置いた後すぐに塩田温泉につかり日頃の疲れを癒しました。

その後、宴会場で姫路医療センター救急科医長の礒部先生の講演が始まりました。先生が実際にDMATとして東日本大震災の時に派遣されて体験されたお話をしてくださいました。講演ではDMATの説明から始まり災害地に派遣されてからのお話など私のような若手が聞いても分かりやすい講演となっていました。災害医療の現場で薬剤師はお薬手帳、薬歴から薬の必要性の高い患者さんをピックアップし情報収集を行うこと、現場へ携行していく薬の選別など実際に派遣されてからでないとわからない事柄を聞くことができました。災害地へDMATとして派遣された時に薬剤師はどう動けばよいのか、どう活躍すればよいのかあまり理解できていなかった私としては今回の講演は大変実りのあるものとなりました。

講演の後は本田会長の「乾杯！」の発声で宴会がはじまりました。旅館での宴会では薬剤師会の会員のほぼ半数にあたる約160名が集まり盛大に行われました。合間には1年目の先生方の余興やゲームがあったりととても楽しませていただきました。あまり顔なじみの少ない2年目の私ではありましたが、隣に座った先生方とお酒とお話を進めるにつれてうちとけていくことができました。





2日目の姫路観光ではヤマサ蒲鉾の販売所にてお土産物を購入し、その後書写山の頂にある円教寺へ向かいました。人生二度目となるロープウェイに乗り、勾配のある山道を上下左右に揺られながらワゴン車で駆け抜け、ついに円教寺に到着しました。この円教寺というのは映画「ラストサムライ」や大河ドラマ「武蔵」、「軍師官兵衛」など有名作品のロケ地としても有名でこの道をトム・クルーズも通ったのかあと思うとなんだか感慨深いものがありました。ここでは、座禅を組むコースと敷地内を散策するコースのいずれかを選択す

ることができ、私は後者を選択しました。とにかくこの円教寺は敷地が広く途中で迷子になってしまうくらいでした。様々な種類の動物の鳴き声、コンクリートで舗装されていない道、そのすべてが日頃味わえないものでした。

私は今回初めて「薬剤師の集い」に参加させていただきましたが、普段はあまり話す機会のない他施設の先生方と交流をもたせていただき、自施設だけでは得られることのなかった知識や情報を得ることができました。これからもこういった場に積極的に参加することで親睦、交流を深めて自身の知識や見聞を広げていきたいと考えています。

今回、企画や宴会など準備してくださった兵庫南部地区の先生方には深く御礼申し上げます。

平成 29 年度 新任中間監督者研修報告

奈良医療センター 海家 亜希子

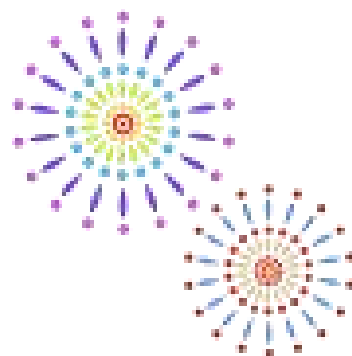
開催日時 平成 29 年 7 月 5 日（水） 10:00～17:45
平成 29 年 7 月 6 日（木） 9:30～17:45
開催場所 大阪医療センター緊急災害医療棟 3 階 講堂
研修プログラム 「国立病院機構の病院経営について」
「中間監督者に求められるスキル」

前半は、運営指導専門職より、国立病院機構の病院運営についての講義が行われた。すでにある仕組みの中で成果をあげるだけの「運営」とは異なり、事業目的を達成するために、継続的・計画的に意思決定を行って実行に移し、事業を管理・遂行することが「経営」であることを学んだ。我々が働いている病院は、多業種の集合体であり、それぞれのスペシャリストがそれぞれ違う規定の下で働いている。それを総括する管理者の仕事は多岐にわたるため、病院経営の難しさを改めて痛感した。経常収支状況の報告があり、平成 16 年度以降経常収支率が右肩上がりとなった理由を説明いただいた。その中には、質の高い医療の提供として、チーム医療や、クリティカルパスの活用、治験、臨床研究、高度先進医療技術の導入の推進など、我々薬剤師が直接関わる分野もあったが、売店や自動販売機からの収入、駐車場管理、広告収入など医療現場以外での収入源もあることを知った。その後、平成 22 年度をピークに経常収支率は下降傾向となっており、平成 27 年度では赤字病院が黒字病院を上回った。近畿グループでは昨年度赤字病院が 15 施設となっており、厳しい状況に立たされている現状を知った。建物や医療機器の老朽化、莫大な借入金残高などの内部要因と消費税率の引き上げ、診療報酬改定への対応などの外部要因があり、独立行政法人に対する風当たりは厳しさを増すばかりだ。理事長の掲げる平成 31 年度単年度黒字化を目指すべく、薬剤師として何ができるか、どのようなことで貢献できるかをしっかり考えていきたいと思う。

後半から 2 日間は、株式会社インソースの森川宗貴先生による中間監督者に求められるスキルについての講義が行われた。6、7 人 1 組に分かれて、グループワークを行った。初めは皆緊張をしていたが、先生の「笑顔と会釈でこんにちは」という＜合言葉＞で一氣に場が和んだと感じた。中間監督者に求められる役割とは、成果チェックや業務の進め方が適正かを常に見直すマネジメントを行う「業務遂行・管理における役割」、個々の部下の能力を評価、判断し、部下が育ちやすい、学べる環境をつくる「教育・指導者としての役割」、自分が率先して業務にあたり、部下のために道を切り拓く「プレイヤーとしての役割」と多岐にわたる。様々な立場から組織を維持し、業務を改善させ、サービスの向上を促進させる、まさに中核の役割を担っている。先生の講義の中で印象的だったのが、「似て否なるもの」シリーズだ。「目的」とは目指すべきゴールや理念であるが、「目標」とはたどり着

くまでに道のりや通過点であり、似ているようで異なる。目的を達成するには、より具体的な目標を設定し、それを遂行していくことが重要であると知った。目的達成のためには、チームワークも大切だ。皆が同じ方向を向いていないと、個々にどれだけ能力があっても組織としては不十分である。先導者(リーダー)として力を発揮することが、我々中間監督者には求められている。進捗管理も重要だ。進捗管理とは、立てた計画と実際の活動の進み具合とを比較し、そのズレを調整したり、計画を修正したりしながら、目標達成のためのマネジメントを行うことを指す。いつまでに、何を、どのレベルで達していなければならないかを「定量的」に設定しておくことで、実態とのズレを測ることができ、速やかに的確な対策が打てるようになる。私はこれが最も重要だと感じた。

私のグループの構成は、専門職、看護師、看護学校の教員、言語聴覚士、検査技師であり、職種は全員異なっていた。その為、各セッションのケーススタディーでは思い浮かぶ事例は様々であった。しかし、その事例を少しずつひも解いていくと、そこに浮かび上がる問題点は職種が違えども同じなのだという結論に達し、共通の理解が生まれた。携わる仕事は違うので、共感されないのでは？と初めは感じていたが、中間監督者という立場で、皆悩むことは同じで、高い意識を同じく持っていることを改めて実感できたよい機会となった。そして、今後業務を行っていく中で、他職種との連携を通じて、病院をより良くしていく手助けが出来ればと思う。



平成 29 年度近畿国立病院薬剤師会 薬剤師セミナー1(Basic コース)報告

神戸医療センター 鷲田依美里

日時：平成 29 年 7 月 22 日（土） 13 時～15 時 30 分

場所：ハイアットリージェンシー大阪

司会進行：近畿中央胸部疾患センター 永井副薬剤部長

研修 1 講義：1)調剤業務	15 分	宇多野病院	鈴木副薬剤部長
2)製剤業務	15 分	敦賀医療センター	平木副薬剤部長
3)薬品管理業務	10 分	循環器病研究センター	川端副薬剤部長
4)DI 業務	15 分	兵庫中央病院	木村副薬剤部長
5)病棟業務	15 分	姫路医療センター	岸本副薬剤部長
6)臨床試験業務	20 分	大阪医療センター	福田副薬剤部長

研修 2 実技：抗がん剤の無菌調製 40 分

参加者：56 名（実技 41 名、SGD 9 名、お手伝い 6 名）

平成 29 年度薬剤師セミナーKINKI-PAD Off-JT 対象研修として、KINKI-PAD BASIC コース履修者を対象に「テクニカル研修」が開催されました。

研修 1 は、日頃の業務の基礎を学んでもらうために、調剤業務、製剤業務、薬品管理業務、DI 業務、病棟業務及び臨床試験業務についての講義が行われました。内容は麻薬、向精神薬、覚せい剤原料の取り扱い、院内製剤とクラス分類、採用薬品の選定から検収業務までの流れ、ABC 分析、医薬品情報の収集、中毒時の対応、TDM、病棟薬剤業務と薬剤管理指導業務の違い、臨床研究の流れ等についての講義がありました。特に経験年数の浅い薬剤師が業務するにあたり役立つ内容でした。

研修 2 は、無菌調製（抗がん剤）に関して参加者に、「実技」、「SGD」、「お手伝い」のいずれかを選択し、研修成果を高めるために抗がん剤調製マニュアル(DVD)の事前学習をしてもらいました。当日、手技を実施しフィードバックが行われました。日常業務で無菌調製を行う機会が少ない参加者は、事前にビデオを見ることで手技の再確認が実施できており、実際に調製する機会も持てたため良い研修だったと思います。SGD では、日頃の業務で疑問に思っていることを DVD で再認識し、KJ 法を用いてグループディスカッションが行われました。実際にインフューザーポンプへの 5-FU の注入方法について質問があがり、全体で討論を行うことで、日頃の疑問点を解決するよい機会となりました。

アンケート結果より、時間が短かったとご意見もありましたが、日ごろ関わっていない業務について学べて良かった、あやふやな部分の整理ができた、3 カ月間施設で学んだことのおさらいができた、改めて業務について見直しができてよかったという感想を得ることが出来ました。

平成 29 年度近畿国立病院薬剤師会 薬剤師セミナー2(Advance コース)報告
京都医療センター 藤井 大和

研修日時：平成 29 年 7 月 22 日 13：00～15：30

研修場所：ハイアットリージェンシー大阪

研修参加者：95 名

KINKI-PAD Off-JT 対象研修として、ADVANCE チーフコース履修者（平成 25 年～27 年卒業薬剤師）と ADVANCE リーダーコース履修者（主任薬剤師）を対象に開催された「ノンテクニカル研修」についてご報告いたします。

研修内容

研修 1：医療の担い手と自覚・マナーを網羅した課題

講師：大阪南医療センター 森 英人先生

研修 1 は(1)看護師から薬剤師へ問い合わせの事例、(2)薬剤管理指導の事例ーインスリン導入ー2つのシナリオでのマナーに関する講義でした。森講師にシナリオを実演していただき、各場面をイメージした後に、各班で(1)応対時と(2)面談時のマナーの問題点についてディスカッションを行いました。各シナリオで2班ずつですが、ディスカッションの結果として、応対・面談時の注意点や患者への配慮不足等の意見を発表していただきました。

研修 2：ビジネスリーダーとしての問題解決の習得

講師：神戸医療センター 續木 康夫先生

研修 2 の SGD では、課題の問題点を解決するために、問題解決シートを使用し、言葉を具体化(具体的な数字や 5W1H を使用する)することで問題点の明確化を行いました。問題点の重要度・緊急度を考慮して優先順位をつけ、その解決方法について各班でディスカッションしていただきました。問題点を明確にし、解決するという問題解決のプロセスを体験することができ、非常に理解しやすかったと思います。また、問題点を解決するには、相手の価値観を押さえたコミュニケーションやファシリテーション能力等のノンテクニカルスキルが非常に大切であることを説明していただきました。日常業務において、ノンテクニカルスキルを使用する機会を如何に意識的に増やしていくかが、今後の課題かと思います。

研修後に回答していただいたアンケート結果からも、応対時のマナーの再確認や問題解決の方法について理解・再確認出来たという意見が多くあり、日常業務に還元できる研修であったと思います。最後に本研修の開催に当たり、講師の先生、開催に携わられた先生方へ感謝申し上げます。今後、職場環境を向上させるため、本研修で学んだことを日常業務に生せるよう努めていきます。

「平成 29 年度近畿国立病院薬剤師会 薬剤師セミナー1(Basic コース)」
に参加して

刀根山病院 保井 健太

平成 29 年 7 月 22 日(土)13:00~15:30 に、平成 28 年卒業と平成 29 年卒業の薬剤師を対象とした KINKI-PAD BASIC コース履修対象の薬剤師セミナー 1 に参加させて頂きましたので報告させていただきます。

研修 1 の講義では調剤業務、製剤業務、薬品管理業務、DI 業務、病棟業務、臨床試験業務についてご教授頂きました。

調剤業務では麻薬、向精神薬、覚せい剤原料の取り扱い方法、当直・日直時に注意することや調剤過誤が起こったときの対応方法、院内感染対策。

製剤業務では院内製剤の分類や意義・目的、市販化された院内製剤、無菌調製・抗がん剤調製の必要性、その際に使用するクリーンベンチ、安全キャビネットについて講義がありました。

薬品管理業務では購入から検収までの流れとして、ジェネリック医薬品の選択基準、薬品倉庫の利用の有無やオーダーデータを利用する場合の在庫管理の違い、ABC 分析について講義がありました。

DI 業務ではプレアボイド報告、医薬品・医療機器等安全性情報報告制度、審査報告書、医薬品リスク管理計画書(RMP)、TDM の意義・効果を発揮する場面・採血のタイミングについて講義がありました。

病棟業務では、これまで薬剤師が行ってきた業務の経緯や薬剤師が行うべきこと、病棟薬剤業務と薬剤管理指導業務の業務内容や記録方法の違い、退院時薬剤情報管理指導料について、ポリファーマシー対策として注目されている薬剤総合評価調整管理料について講義がありました。

臨床試験業務では臨床研究・臨床試験・治験の関係性、臨床研究の流れ・研究デザインの違い、治験の流れ・治験が行われるまでに必要な契約文書等、治験審査委員会の役割・治験責任医師について講義がありました。

その分野に精通している方の講義を聞いて、さらに知識を深め、また知見を広めることができ私にとって大変有意義な時間になりました。

研修 2 は抗がん剤調製の実技と抗がん剤調製についての SGD が行われ、各々でどちらかを選択しそれぞれのグループに分かれて行いました。私は実技を選択し、抗がん剤の調製手技の DVD を事前学習の上、参加しました。当日も会場での数分間の DVD 上映があり、注意事項の説明の後、前半後半、各 2 名に分かれ実技を行いました。症例提示があり、それにより調製を行い、投与計算から払い出しまで一連の流れを行いました。私は後半だったので、見学した後に実施しました。私は日常の業務で抗がん剤の調製を行っていますが、施設によっては全く抗がん剤に触れない人もおり、時間内に調製が終わらない人もいたの

でももう少し時間が長い方がいいと感じました。

参加するまでは学生時代に受けた OSCE くらいにしか思っていませんでした。しかし参加してみて他の人が調製しているのを客観的に見ることで、普段自分が慣れによって手技がおざなりになっている部分やどのようにすれば被ばく防止をしつつ、スピードを上げられるのかなどを考えることができ本当に良い経験になりました。今後もこのような実用的である研修があれば是非参加したいと思います。今回の研修で得た知識を今後、普段の業務に活かしていきたいと思っています。



「平成 29 年度近畿国立病院薬剤師会 薬剤師セミナー2(Advance コース)」

に参加して

兵庫中央病院 森田 知子

平成 29 年 7 月 22 日にハイアットリージェンシー大阪において対象者別に企画された薬剤師セミナーが開催されました。

薬剤師セミナー 1 は BASIC コースとしてテクニカル研修を実施し、薬剤師セミナー 2 では ADVANCE リーダ/チーフコースとしてノンテクニカル研修が実施されました。

私の参加した薬剤師セミナー 2 は、研修 1 の“医療の担い手と自覚・マナーを網羅した課題”と研修 2 の“ビジネスリーダーとしての問題解決力の習得”について研修が行われました。

研修 1 ではロールプレイングされた日常の薬剤師業務の場面についてグループで問題点等をスモールグループディスカッションしました。ロールプレイングされた場面は病棟看護師との電話対応と病棟での患者さん対応でした。それぞれの対応については日常的な状況の中で、自分自身振り返ることはありませんでした。しかし、今回、ロールプレイングを通して自分自身が普段とっている対応と照らし合わせて考えることができ、改めて患者さんの確認はフルネームで行うことが重要であることや患者さんと接する際には寄り添う気持ちが大切であることを再認識することが出来ました。

研修 2 ではグループワークだけでなく、講義も行われました。問題解決に必要なノンテクニカルスキルは多職種連携においても求められる技術で、反復練習が必要となります。そのため、ノンテクニカルスキルを培うために開催された今回のような研修はとても意義あるものだと感じました。日常において円滑に問題解決が出来ていない原因は、私自身が曖昧な表現や言葉を使用していることが多く、問題点やその解決策が具体化出来ていないためであることがわかりました。また問題発生時には、目標・原因・対策と順序立てて、解決していくことが必要であることも学びました。グループワークでは「あるスタッフが他のスタッフの仕事のやり方について指摘している」という設定の例題について、問題解決シートを用いて目標を立て、問題・原因・対策を検討しました。私たちのグループでは職場の満足度を上げることを目標とし、具体的に問題点をあげ、それぞれに対する原因・対策を考えました。対策としては業務を均てん化することや話し合いの場を設けることなどがあげられました。

今回の研修を通して、医療現場におけるマナーや問題解決に必要なノンテクニカルスキルについて学ぶことが出来ました。学んだことを患者さんに薬剤指導を行う際やスタッフとのコミュニケーションの場で発揮したいと思います。また、そうすることでよりよい職場環境づくりに繋がっていきたいと考えています。最後に、本セミナー開催に当たり、ご協力を頂きました会員の先生にお礼申し上げます。ありがとうございました。

平成 29 年度近畿国立病院薬剤師会 薬剤師セミナー 特別講演会報告

刀根山病院 東 里奈

平成 29 年 7 月 22 日(土)にハイアットリージェンシー大阪にて開催されました、平成 29 年度近畿国立病院薬剤師会学術講演会に参加いたしましたので報告させていただきます。

【一部】

テーマ：「抗がん剤レジメンの作成と留意点」

基調講演 1：

がん小委員会(若手中心)から、抗がん剤レジメン作成でのギモン点、知りたいこと

講師：刀根山病院 保井 健太先生

がん小委員会の若手を中心に行ったアンケート結果を基に、レジメンに対する現在の若手からの疑問点などを提起していただきました。

基調講演 2：各施設における抗がん剤レジメンの作成と留意点

講師：大阪南医療センター 田路 章博先生

大阪医療センター 庄野 裕志先生

抗がん剤治療において今や不可欠となっているレジメンについて、その契機となった「ダナ・ファーマー事件」からレジメン作成の意義、またその重要性についてと共に、各施設におけるレジメン作成の流れや薬剤師の関わり、レジメンを採用する際のポイントなどについてもご講演いただきました。講演を聴き、より安全に抗がん剤治療を行うため、各施設が取り組んでいる事やその工夫などを学ぶことができました。

【二部】

特別講演

演題：緩和ケアサポートチームにおける多職種連携について

講師：国立病院機構 大阪南医療センター 中央診療科総括部長 緩和ケア推進室長

上島 成也先生

緩和ケアでは、がん患者の様々な苦痛を総合的に捉え、整理し、患者の抱える苦痛を包括的に評価することにより、その負担を軽減することが重要となります。さらに、「ひとりの人間としてどのような人生を送りたいか」「何を大切に生きたいのか」など患者やその家族と話し合うことで主観的な苦痛を和らげる援助を行うことも重要なケアの一つとなります。そのためには、サポートチームの早期からの介入に努めることが必要であり、さらに各職種による特徴を理解しその役割を果たすことがチームアプローチの要であると学ぶことができました。緩和ケアの地域との連携についてもご講演いただき、興味深く聴講させていただきました。

この度の講演を聴講し大変貴重な経験となりました。今回の研修で得た知識を今後の業務へと活かして行きたいと思います。

～地区会報告～

<京都北部・福井地区>

地区理事

敦賀医療センター 宮部 泰輔

日時：平成 29 年 5 月 26 日（金）19 時開始

開催場所：敦賀市

出席者：舞鶴医療：11 名、敦賀医療：10 名、あわら病院：3 名

出席率：85.7%（出席者 24 名/会員数 28 名）

内容：

1. 今年度新たに移動された先生方、及び新人の先生方紹介

舞鶴医療センター：新人 1 名、異動 2 名

敦賀医療センター：新人 1 名、異動 2 名

あわら病院：異動：1 名

2. 各施設における今年度の取り組みについて

3. 懇親会

<京都南部・滋賀地区>

地区理事

京都医療センター 藤井 大和

日時：平成 29 年 6 月 9 日（金）19：30～21：30

開催場所：京都市

出席者：京都医療センター：29 名、南京都病院：7 名、

東近江総合医療センター：13 名、紫香楽病院：4 名、宇多野病院：9 名

出席率：82.4%（出席者数：61 名/会員数：80 名 うち産休・育休 6 名）

内容：

1. 理事会報告

本年度の近畿国立病院薬剤師会の行事内容、薬剤師の集いの日程について説明した。各自近畿国立病院薬剤師会のホームページ確認し、今後の行事に積極的に参加していただくよう依頼した。

2. 新会員・各施設の現状報告について

新会員は 16 名 各施設の現状報告については、薬剤管理指導業務や後発医薬品採用状況等の内容であった。

3. 親睦会 参加者について

82.4%と前回の地区会と比較し、参加率は増加。積極的に他施設と情報交換を行うことが出来た。次回地区会も参加率 80%以上を目指す。

<兵庫南部地区>

地区理事

神戸医療センター 山下 大輔

日時：平成 29 年 6 月 12 日（月）19：30～21：30

開催場所：明石駅周辺

出席者：姫路医療（15 名）神戸医療（13 名）青野原（0 名）

出席率：67%（参加者 28 名/会員数 42 名）

内容：

1. 薬剤師の集いの役割分担について
2. 懇親会（新会員紹介）

<大阪北部・兵庫東部地区>

地区理事

循環器病研究センター 中嶋 裕美

日時：平成 29 年 6 月 15 日（木）19 時半より

開催場所：虎連坊 ヒルトンプラザウエスト店（大阪府大阪市北区梅田 2-2-2）

出席者：兵庫中央（5 名）、刀根山（11 名）、循環器病研究（23 名）

出席率：54.9%（参加者 39 名/会員数 71 名）

内容：

1. 新会員紹介

刀根山 3 名、兵庫中央 1 名、循環器病研究センター 6 名

施設異動 刀根山 1 名、循環器病研究センター 1 名

2. 施設紹介 本年度に重点的に取り組む事項について

刀根山：ポリファーマシー対策と薬薬連携

兵庫中央：建て替えと地域連携

循環器病研究：外来での術前の薬剤師面談の推進、手術室への薬剤師の配置

3. 理事会報告

今年度の薬剤師会行事の予定を案内した。

近畿国立病院認定薬剤師研修制度の利用を呼び掛けた

<大阪南部地区>

地区理事

大阪医療センター 坂倉 広大

日時：平成 29 年 6 月 8 日(木) 19:00-21:30

開催場所：天王寺

出席者：大阪南医療 24 / 30 名 (80 %)、

大阪医療 31 / 41 名 (76 %)

近畿中央胸部疾患 15 / 21 名 (71 %)、

出席率：76% (参加者 70 名/会員数 92 名)

内容：

1. 理事会連絡

①6, 7 月の薬剤師会行事連絡 ②薬剤師会行事インターネット出欠システムの周知
上記, 2 点を伝達した。

2. 各施設の現状報告

各施設の現状を各施設の代表より紹介した。

大阪南医療 田路 章博

近畿中央胸部疾患 丸山 直岳

大阪医療 中蔵 伊知郎 (敬称略)

3. 新会員紹介

新会員(南部地区間異動も含む)を紹介した。

大阪南医療 9 名、近畿中央胸部疾患 4 名、大阪医療 10 名

4. 意見交換会

各会員間による意見交換を行った。

<奈良地区>

地区理事

奈良医療センター 中澤 誉

日時：平成 29 年 3 月 9 日(木) 19:00~21:00

開催場所：奈良市内

出席者：奈良医療 7 名、やまと精神医療 3 名

出席率：100%(出席者 10 名/会員数 10 名)

内容：

1. 人事異動について

2. 送別会

日時：平成 29 年 4 月 21 日(金) 19:00~21:00

開催場所：奈良市

出席者：奈良医療 7 名 やまと精神医療 3 名

出席率：91%(出席者 10 名/会員数 11 名)

内容：

1. 人事異動について

奈良医療 3 名、やまと精神医療 1 名

2. 地区理事選出

平成 29 年度理事選出は理事立候補と会員の挙手による承認により中澤誉が奈良地区理事となった。

3. 歓迎会

他施設の薬剤師と情報交換を行うとともに、親睦を深めることが出来た。

4. その他

生涯研修認定制度初期運用のための特別委員会設置について

<和歌山地区>

地区理事

南和歌山医療センター 小林 正志

日時：平成 29 年 7 月 20 日（木） 19:30～21:30

開催場所：和歌山県白浜町 白良浜

出席者：南和歌山医療 17 名(19 名)

和歌山病院 5 名(7 名)

出席率：84.6%(出席者 22 名/会員数 26 名)

内容：

1. 異動者、新採用者自己紹介

2. 各施設の取り組み

① 薬薬連携における院外薬局に対する対応等について

- ・ 薬局薬剤師会に対する勉強会の定期開催開始（南和歌山医療）
- ・ 有田・日高地区病院薬剤師会より、「院外処方箋における疑義紹介に対する代行回答プロトコル作成」のためのワーキンググループ立ち上げ（和歌山）

② 学会発表（2016/12 以降）

- ・ 南和歌山医療 5 学会 6 演題
- ・ 和歌山 1 学会 1 演題

③ 治験関連 新規治験

- ・ 南和歌山医療 2 課題
- ・ 和歌山 1 課題

3. 意見交換

趣味のページ ～普通サイズじゃ物足りない～

国立循環器病研究センター 白井 祐也

小田先生からバトンを引き継ぎました、循環器センターの白井と申します。趣味のページということで何にしようかと考え、昔からよく大盛りオムライス等に挑戦したことがあり、今回久しぶりにそれに挑戦したことについてお話をさせていただこうと思います。

場所は大阪のコリアンタウンである鶴橋です。高校、大学時代といつも乗り換えなどで利用している場所でした。鶴橋と言えば皆さん思いつくことといえば、もちろん焼肉だと思います。今回挑戦したものはもちろんその「焼肉」ではなく、実は「パフェ」です。

よく雑誌などにも掲載されるパフェの有名店で女性とくに学生に人気のお店となっています。

当日お店に向かった時にはいくつかのグループの女性
が列をなして並んでいました。そこのお店は何が有名か
と聞いてみると、パフェのサイズです。1人分のサイズでも
高さ 30cm 以上になります。今回注文したのはスペシャル
サイズと言われているものです。列に並ぶことしばらく
し、ついに店の中へ案内されました。期待と不安のなか
でまっていると、ついにその姿を現したパフェは店中を
騒然とさせる大きさでした。

高さは 60 cm 以上を超えるもので生クリームとアイスが
たくさん積み重ねられていました。

お店の行列は絶え間なく続くため、40 分の時間が制限
されています。

黙々と食べ始め、最初はアイスやフルーツなどを食べて
いきとてもおいしいものでした。食べ進めていくにつれ、甘さとアイスの冷たさで体が
悲鳴を上げていきます。40 分ギリギリの時間でほとんど食べ進めましたが、アイスが溶
けたものが少し残してしまった結果となりました。学生時代は気にせず食べることがで
きていたのに、少し体が衰えてしまったなど実感しました。

毎年の健康診断で着実に体重増加、腹囲が上がってきており少しは体を気にするほうがい
いかもしれませんが、また何かチャレンジしたいなと思っています。

次回は、東近江総合医療センターの豊田先生にお願いしております。よろしくお願いいたします。



編集後記

- ♪ついにシリーズ 5 年ぶりとなるドラクエXIが発売されましたね。やりこんで寝不足の方もいらっしゃるのではないのでしょうか？
- ♪セリーグは今年も広島が優勝に向けて快進撃を続けておりますが阪神にも頑張ってもらいたいものです。パリーグはソフトバンクが昨年の雪辱を果たせるか？セ・パ両リーグ共に A クラスが混戦模様。このまま TOP が逃げ切れるかハラハラドキドキですね。ここ 10 年のうちパリーグ勢が 7 回日本一。そろそろセリーグが日本一になってほしいものです（特に虎）。
- ♪今回の世界陸上で引退を表明していたボルトは最後にメダルを獲得できませんでした。しかし、引退は撤回しないとの事。振り返らず次に挑戦するのはかっこいいですね。
- ♪今年の夏は暑いかと思えば冷夏と呼ばれるくらい気温が下がったりしていますが、いかがお過ごしでしょうか？体調にお気をつけください。

(K.T)

近畿国立病院薬剤師会ホームページ <http://www.kinki-snhp.jp/>

近畿国立病院薬剤師会会誌

第五十一号 平成 29 年 8 月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局

大阪市中央区法円坂 2-1-14

(独立行政法人国立病院機構大阪医療センター薬剤部内)

発行人 会長 本田 芳久（大阪南医療）

編集 広報担当理事

本田 富得（東近江総合医療）

広報委員

高原 由香（刀根山）

竹松 茂樹（京都医療）

中西 彩子（近畿中央胸部疾患）

岩槻 瑠美（南和歌山医療）

村津 圭治（神戸医療）

竹原 健次（兵庫中央）